

With コロナ・Beyond コロナの教育について〔論点メモ〕

1 市立高等学校のあり方検討

- ▶ 兵庫県教育委員会において、県立高校の望ましい規模と配置のあり方について検討する「ひょうご未来の高校教育のあり方検討会」を設置すること、及び本年度末(令和2年度末)に報告を取りまとめることが発表された。〔令和2年5月21日〕
- ▶ 本市においても、少子化が進行する中、県立高校の動向を踏まえ、市立高校のあり方についても改めて検討を行う時期に来ているのではないか。
- ▶ ついては、市立高校の更なる特色化を含め、検討に着手すべきではないか。

With コロナ・Beyond コロナの教育について〔参考資料〕

	姫路高校	琴丘高校	飾磨高校
設置課程・学科	<ul style="list-style-type: none"> 普通科 : 定員200〔6学級〕 探究科学コース : 定員 40〔1学級〕 	<ul style="list-style-type: none"> 普通科 : 定員240〔7学級〕 国際文化科 : 定員 40〔1学級〕 	<ul style="list-style-type: none"> 普通科 : 定員200〔6学級〕 健康福祉コース : 定員 40〔1学級〕
特色	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業や少人数授業を展開し、放課後や土曜日に補習を行っている。 探究科学コースでは、ハイレベルの学力の獲得にとどまらず、文・理系融合型のカリキュラムを組むことにより、適性を生かせる進路実現を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味・関心に応じて多様な進路の実現を目指している。 国際文化科では、2名の英語の外国人講師による少人数教育を行うとともに、選択では、外国人講師による第2外国語（スペイン語・韓国語）を学習できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人の進路実現に向け、基礎学力の定着を図っている。 健康福祉コースでは、介護・福祉を中心に幅広く学び、介護職員初任者研修や移動支援従事者・同行援護従事者（ガイドヘルパー）の認定を目指している。
入試実績 (H31)	<ul style="list-style-type: none"> 推薦 : 定員 40 志願者数 76 (倍率1.90) 一般 : 定員200 志願者数214 (倍率1.07) 	<ul style="list-style-type: none"> 推薦 : 定員 40 志願者数 45 (倍率1.13) 一般 : 定員240 志願者数290 (倍率1.21) 	<ul style="list-style-type: none"> 推薦 : 定員 40 志願者数 58 (倍率1.45) 一般 : 定員200 志願者数215 (倍率1.08)
進路実績 (H31.4)	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学 110名 私立大学(関関同立) 61名 等 	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学 27名 私立大学 177名 短期大学 11名 専門学校 46名 就職 4名 	<ul style="list-style-type: none"> 国公立大学 6名 私立大学 106名 短期大学 13名 専門学校 68名 就職 22名

With コロナ・Beyond コロナの教育について〔論点メモ〕

2 デジタル学習の推進

- ▶ 新型コロナウイルス感染症に起因する今般の学校休業に際しては、家庭学習の重要性とともに、その困難さについても認識できた。
- ▶ 本市においては、感染流行の第2波・第3波に備えるため、1人1台のタブレット端末の整備を加速するとともに、就学援助世帯への通信費の支援について、補正予算案に計上した。
- ▶ しかしながら、家庭学習の効果を高めるためには、タブレット端末の整備のみではなく、積極的な自主学習を支援するためのデジタル化も必要である。
- ▶ 遠隔教育やオンライン教育の推進とあわせて、電子書籍を充実させることで、市立図書館の「電子図書館」化を進め、デジタル学習を一層推進すべきではないか。

With コロナ・Beyond コロナの教育について〔論点メモ〕

3 大規模校の規模適正化検討〔感染予防の観点から〕

- ▶ 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の予防には、いわゆる「三密」(密閉・密集・密接)を回避することが有効であるが、特に、児童・生徒数の多い大規模校については、「密集」及び「密接」に懸念がある。
- ▶ 「姫路市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」(令和2年2月姫路市教育委員会)においては、25学級以上の小中学校を大規模校として、見直しの対象としている。
- ▶ 政府の専門家会議における、新型コロナウイルス感染症の今後の見通しについては、長丁場になるとの見方であり、コロナの時代に適合した学校教育のあり方を模索する必要がある。
- ▶ 特に、児童・生徒の健康を守る有効な手段として、「三密」を避けるため、規模の適正化に関して、しっかりと検討を進める必要があるのではないか。

With コロナ・Beyond コロナの教育について〔参考資料〕

学校規模〔令和元年度〕

	小規模	望ましい規模	大規模	平均
小学校	11学級以下	12学級～24学級	25学級以上	1学校あたり 14.6学級
	27校	33校	9校	
中学校	8学級以下	9学級～24学級	25学級以上	1学校あたり 11.4学級
	12校	21校	2校	

※ 小学校は、義務教育学級前期課程を含む。

※ 中学校は、義務教育学級後期課程を含む。